

# 資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館  
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13  
電話 0423-96-2909  
FAX 0423-96-2981  
郵便振込 00130-7-764159  
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

高松宮記念ハンセン病資料館三周年記念フォーラム

## 「ハンセン病の歴史を探る」

らい予防法は  
まだ生きている

## 予防法に深い関心 各地から二五〇人参加

労病院々長、  
笹川保健協力  
院、弁護士、  
ブース記念病  
院、東村山市議、  
財団、救世軍

連、職員、入園者など多彩  
な顔ぶれで「らい予防法」  
に対する関心の高さを示す  
ものでした。

平沢委員の司会で始めに



「ハンセン病の歴史を探る」をテーマに6月25日、多磨全生園公会堂において資料館二周年記念フォーラムが開催されました。今年は厚生省・東京都・東村山市・同教育委員会・朝日新聞東京厚生文化事業団の後援を得たことや「らい予防法」問題がマスコミで大きく取りあげられたこともあってか、全国各地（青

森・熊本・岡山・山口・大坂・名古屋・静岡など）と関東六県、地元東京からは都内十四区と三多摩十七市などから三五〇人の参加者がありました。また栗生楽泉園からは自治会三人、職員五人の参加がありました。

職業別では厚生省関係五人、所長連盟（松丘、駿河、多磨、長島、邑久、菊池）六人、多摩研所長、待

「らい予防法は社会問題化しており、真正面から取り組むべきである」と挨拶。埼玉大の藤野豊講師と田真一元帝京大教授は「予防法」の名のもとに強制収容や断種等がどのようになってきたか、歴史的な背景と国の政策の誤りを指摘。続いて鈴木禎一元全惠協事務局長と成田稔資料館運営委員長は、過去に患者や家族がどのような迫害を受けたか具体例をあげ「ハンセン病の歴史を風化させではない」と述べ、また講演後会場から八人の方が「感動した」「同和問題と同根だ、国はこの問題を教育面でもとりあげるべきだ」「強制隔離は死文化しているが、いつから実態が変わってきたのか」などの発言や質問が相次ぎました。

# 予防法をめぐる動き 廃止、新法制定を！

藤楓協会の大谷理事長が全患協支部長会議、資料館シンポジウム「日本らい学会と三回にわたって公表した、らい予防法に対する個人的見解（人権無視の現行予防法を廃止し、現在の国立十三園、私立二院の入所者五八〇〇人については、医療、福祉、生活面を今まで通り国の責任において保障する新法を制定する）は各方面に大きな波紋を起こしました。

全患協（全国国立療養所ハンセン病患者協議会）は、組織結成以来、一貫して強制隔離収容で偏見差別を止め、らい予防法の抜本改正を要求、一九五三年には全患者が一丸となつて国会、厚生省への陳情、座り込み、デモ行進、作業放棄、ハンストなど十ヵ月に

高松宮記念ハンセン病資料館で予防法問題を重点討議。

▼一九九四年（平成6年）4月、全患協支部長会議で予防法問題をめぐって、資料館がオープンして以来、各方面でらい予防法をめぐる論議が一段と活発化し、予防法見直しの機運は高まりつつあります。

▼一九九四年（平成6年）4月、全患協支部長会議で予防法問題をめぐって、資料館がオープンして以来、各方面でらい予防法をめぐる論議が一段と活発化し、予防法見直しの機運は高まりつつあります。

およぶ闘争を行いましたが、要求実現には至りませんで、その後も昭和38年、平成3年と三度厚生大臣に要請書を提出しております。

平成5年、高松宮記念ハンセン病資料館がオープンして以来、各方面でらい予防法をめぐる論議が一段と活発化し、予防法見直しの機運は高まりつつあります。

6月25日 多磨全生園を訪問した真宗大谷派僧侶と信徒による大谷見解への賛同文出される。

10月15日 らい予防法を廃止・特別措置を求める筑

▼一九九五年（平成7年）1月24日、全患協、らい予防法についての宣言文と九項目の基本要求を決定。

4月22日 日本らい学会

らい予防法についての見解

を発表。各新聞が掲載する。

5月10日 朝日新聞、社説「らい予防法をなくしたあとに」を掲載。

5月12日 ハンセン病予防事業調査検討委員会、中間報告を出す。

5月18日 全医労、らい予防法問題に関する見解を出す。

5月28日 障害者と家族の生活と権利を守る都民連絡会第二回総会で「らい



所沢街道をデモ行進、前方は警官隊。  
(昭和28年の予防法闘争)

5月 盛岡で開催の日本らい学会で大谷見解発表。

6月25日 資料館一周年記念シンポジウム「らい予防法改正をめぐって」を開催。

11月8日 全国国立ハンセン病療養所所長連盟の見解公表される。

5月29日 東村山身患連第二回拡大幹事会で、総理大臣、厚生大臣に予防法見直しの要請電を打つ。

6月8日 日本共産党国

議員団、井出厚生大臣に

らい予防法についての要請書を出す。

12月15日 奈良県議会、らい予防法の抜本見直しを求める意見書を国に提出。

12月20日 東久留米市議会、らい予防法を廃止し新法の制定を求める意見書を国に提出。

1月24日 全患協、らい

予防法についての宣言文と

九項目の基本要求を決定。

4月22日 日本らい学会

らい予防法についての見解

を発表。各新聞が掲載する。

5月10日 朝日新聞、社説「らい予防法をなくしたあとに」を掲載。

5月12日 ハンセン病予

防事業調査検討委員会、中

間報告を出す。

5月18日 全医労、らい

予防法問題に関する見解を

出す。

5月28日 障害者と家族

の生活と権利を守る都民連

絡会第二回総会で「らい

ます。

人の委員によつて本格的な

検討に入ることになつてい

ます。

# 資料館二周年のあゆみ 延271団体が来館

# 開館して満二周年を過ぎた6月30日、資料館の入館者は延べ万九二〇〇人に達し、開館日数二五一日で割る二日平均入館者は三七・五人となります。これは昨年度一日平均の四二人に比べると若干減となつておりますが、その反面団体来館数が増

## あゆみの二周年があつい壁延271団体が来館

い、前  
しまし  
ること  
ていた

# 「あつい」

壁」を見て  
大学教養学部 成田 恵子  
したが 言葉はうまくできない  
のですが、偏見をつくつて  
しまった社会、それを当然  
のこととして受入れてしま  
つた社会に慣れを感じまし

私が研究として調べるのは、とても短い期間ですが、その期間だけでなく、ずっと問題について考え、学びとつていけたらと思います。また資料館にお世話になると思いますが、よろしくお願い致します。

（日）、全国精神障害者団体連合会と地元関係団体との交流会を資料館において開催する予定です。大谷館長も出席されます。

はハンセン病はどうな  
病気であるか、ほとんど知  
りませんでした。それなら  
ば難しい文献を読む前に、

がままをお願いしたのです。  
初めて資料館を見学した  
時もそうですが、今回も心  
にものすごい衝撃を受けま  
した。言葉でうまいことい

た。映画の終わりに流れていた歌のとおり、ハンセン病の方と、そうでない人と何が一体違うのでしょうか。

特に琵琶島待病院の井手隆著「ロザリオの珠について」「良き人生」「この道」を五〇〇冊以上寄贈して頂きました。これについても厚く感謝申します。

④ プックレット・シンポジウム「らい予防法改正をめぐって」発行。皓星社刊 八〇〇円

出版記念会（2月23日）  
資料館へ二四〇冊頂く。  
⑧青葉小学校六年生に  
よる全生園、資料館を見学  
しての百人百種新聞展（2

⑨ガイドブック「ハンセン  
月22日～3月30日)

また各園療友が出版され  
た沢山の単行本を寄贈して  
頂き、有難うございました  
図書館で大切に保管させて  
頂きます。

- ①全患協ニュース 資料館  
特集号を出す（7月1日）
- ②精神・難病団体との交流  
会（7月10日）
- ③国吉信絵画遺作展（9月

る「資料館建設の意味を考える展」(11月8日  
～12月7日)

探る「開催」。  
資料館にはこの一年間、「来館者の声」と看護学校生たちの感想文が数百枚も寄せられております。

えて、二七一団体、八五五  
九人となり、全体の四五%  
を占めています。

次にこの一年間の歩みを  
振り返つて見ますと

⑤北条民雄著「いのちの初夜」(望郷歌、間木老人を含む)を資料館で発行。定価一千円  
10月

病資料館」発行 定価千円  
 ⑩菊池恵楓園、琵琶崎待翁  
 病院 昔むかし写真展」(4  
 月18日～6月30日)  
 ⑪資料館二周年記念フォー  
 ラム「ハーナセン病の歴史を



## 来館者の声

## 修道女の献身に感動

●自営業 56才 男性  
この資料館が訴えていることは私への告発もある、偏見差別をなくし、人権を回復する課題は健常者である私自身の課題でもある。  
現在の入園者にとつては過去は辛いことでしようがこの事実を提起していくことこそが、らい予防法改正  
ジャン・マリー・コール  
神父は一八五〇（弘化七）年六月二十八日、フランスのブルターニュ生れ。一八七四年（明治七）年神父となる。  
一八七六（明治九）年十二月三十日、長崎に上陸した時は二十六歳。日本は明治二十一年二月十一日に大日本帝国憲法発布。信仰の自由が保障されるや、神父は直ちに熊本市手取教会の

● 学生 23才 女性  
病氣にかかりただけで強制収容されたり、まるで罪人のようなあつかいをされていたということを知り、びつくりしたと同時に悲しくなりました。人種差別的でやはりあつてはならない主任神父に派遣された。  
キリスト教禁止令が廃止されたとはいへ、保守思想の強い熊本城下町に着いた回転居を迫られたことから

● 公務員 53才 男性 病気に関する説明等が不十分なので、現在では治める病気であることをPRするため、それらの資料等の展示があつても良いのではー。(同様のご意見が沢山ありました。現在展示のため準備中です。係)

● 学生 22才 女性 も察せられる。熊本で神父は教会司牧のかたわら貧しい人、らい患者の救済に力をそそぎ始めた。

神父は先ず本妙寺の近くに小さな家を借り、患者の施療と布教に専念した。しかし、すぐ手狭になり、明治二十九年島崎町琵琶崎に土地を買い、ここを根拠に本妙寺の中腹

八九一

さんがひどい差別を受けていた社会的背景を実感し、またこの病気の治療に一生を捧げた方々、外国から療養所つくりに派遣された修道女などの献身的な生き方に感動しました。このような差別をくり返さないためにも、より多くの人がこの事実を知つてほしいと思つた。

中尾丸の施療活動をつづけた。

神父は熊本幼きイエズス会の修道女二名、伝道婦二名の助けのもとに、治療ミサ聖祭、キリスト教講話、洗礼などに力をそいだが遂に過労におちいつた。神父はこの救らい事業を引き継いでくれる修道女を何んとかして派遣してほしいとローマ教皇厅に申請（明治三十年）したのであつた。

み、近くに住んでいるのに一度も行ったことがないのを悔いて今日来ました。

今、何んとも言えない気持です。このような歴史を生き、そして亡くなられた方がいたことをヒシヒント感じています。らい予防法が廃止になり、地域の中で社会の中で全生園の方々が生活できるようになれば、そうしなければと強く思います。また来ます。

◎あとがき

昨年、今年とらい予防法をめぐる各界の見解が次々と発表された。「無期懲役からやつと解放されるような気持だ」と在園五七年の老人がぽつりとつぶやいた。

二年つづいた「昔むかし写真展」は大変好評。生きぬいた証として全療養所の写真展を順次開催して行き

自分がもし、この病氣に  
かかつたらと思うと怖いで  
ことだと思う。

ハンセン病については本で読んだり、皮フ科の講義で皮フ疾患の一つだという

ました。個人的にはもう少しきわしい病理が知りたかったのです。

先駆者④

## コール神父

主任神父に派遣された。キリスト教禁止令が廃止されたとはいへ、保守思想の強い熊本城下町に着いた。先駆者④

# コール神 一八七三(一)

も察せられる。熊本で神父は教会司牧のかたわら貧しい人、らい患者の救済に力をそそぎ始めた。

の中尾丸の施療活動をつづけた。  
神父は熊本幼きイエズス会の修道女二名、伝道婦二名の助けのもとに、治療ミサ聖祭、キリスト教講話洗礼などに力をそいだが遂に過労におちいつた。神父はこの救らい事業を引き継いでくれる修道女を何んとかして派遣してほしいとローマ教皇厅に申請（明治三十年）したのであつた。

そうしなければと強く思います。また来ます。

○あとがき

昨年、今年とらい予防法をめぐる各界の見解が次々と発表された。「無期懲役からやつと解放されるような気持だ」と在園五七年の老人がぽつりとつぶやいた。

二年つづいた「昔むかし写真展」は大変好評。生きぬいた証として全療養所の写真展を順次開催して行き

修